

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（企画担当）	・今年オリンピックやワールドカップが開催され、地上デジタル放送も始まるので、家電業界は良い方向に向かう。
		一般レストラン（経営者）	・歓送迎会等で客の動きが変わる。また大型商業施設も開業1年が経ち、客の戻りがある。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・デパートの売出があり、遠方からの客が多い。高額な商品は売れないが、来客数が多いため売上があがる。
		商店街（代表者）	・春先のセール、フレッシュマン向け商品等で動きが出るため、個人消費は少しずつ回復していく。
		百貨店（営業担当）	・春物は比較的順調に推移しており、大型商業施設の影響もここにきて一服しているため、今後は良くなる。
		百貨店（営業担当）	・新しい商品が展開できていないため、現在は停滞しているが、後半にかけて新商品等が店頭に出てくるとまた活性化してくる。
		百貨店（販売促進担当）	・一部富裕層に加え、一般客の消費マインドが前年に比べ確実に上昇している。マザーニーズやイベント需要が活発になる3月に向け期待できる。
		百貨店（営業企画担当）	・高額商品の動きに回復の兆しが見え始めている。新商品や品質の高いもの、こだわり商品の提案を強化することで十分に客の支持を得られる。
		スーパー（店長）	・今後も寒い状態が続けば良くなる。
		スーパー（店長）	・競争店に一服感がみられ、客足が戻りつつある。
		スーパー（総務担当）	・数か月前から食品は好調で、衣料品、住居品についても改善しつつある。購買意欲も高く、衣料品、住居用品がこのまま前年並みを維持できれば、売上も上がる。
		コンビニ（販売促進担当）	・パン業界において春のキャンペーンの企画があるので、上向く。
		衣料品専門店（経営者）	・来客数が少しずつ増えている。
		衣料品専門店（総務担当）	・客の動きが良く、売上も前年より増加傾向である。
		家電量販店（店長）	・消費動向も上向いており、販売量も上がってきている。
		乗用車販売店（従業員）	・来客数も増え、店が活発になっている。決算月となり、客の消費マインドも高まっている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・業界内淘汰が進んでおり、残った店舗に客が流れている。
		高級レストラン（経営者）	・イベントの宣伝効果がでており、期待できる。
		高級レストラン（経営者）	・送別会等が入っており、多少良くなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・来客数がこのところ一番少なく、これから増えていく。
		観光型ホテル（経営者）	・3～5月に関東・関西からの客の予約が既に入っており、昨年以上の売上の増加が見込める。
		都市型ホテル（総支配人）	・新北九州空港開港により新規顧客が増える。
		旅行代理店（従業員）	・海外旅行の予約が東南アジア、ハワイ、ヨーロッパなどを中心に前年を超えている。学生旅行も量、単価ともに昨年を上回る。
		旅行代理店（業務担当）	・海外旅行の受注が上向きである。
		通信会社（業務担当）	・2、3月は年間最大の需要期であり、卒業生およびその家族の来店数が増える。若者向けのサービスが加わり、新商品、低価格商品ともに販売数が伸びてくる。
		テーマパーク（職員）	・すでにJリーグの一部チームがキャンプインし、2月に4チームのキャンプが予定されている。また来週から地元プロ野球球団の春季キャンプがスタートし、2月の毎週土曜は4つの宿泊施設がほぼ満館となっている。3月は春休みの伸びに期待している。
		ゴルフ場（従業員）	・来場者の動きとして、3月までの予約は例年を上回っており、特に10組以上の大きいコンペが企画されている。
		美容室（店長）	・客の購買意欲も上がり、店の商品が売れるようになった。
		変わらない	商店街（代表者）

一般小売店〔鮮魚〕 (店員)	・近隣のスーパーが閉店し、去年、少し離れた所に大きなスーパーが開店した。年配の客もそちらに取られ、当店への客足は今後ますます減る。	
百貨店(営業担当)	・クリアランス時期の購入姿勢が慎重になっている。買いたい商品のプライスタウンを待つ人が増え、衝動買いをする人が減少した。特に高額商品の購入が慎重であるが、話題の薄型テレビは好調を堅持している。	
百貨店(販売促進担当)	・売上が前年より下がっている。この傾向が今後も続く。	
百貨店(売場担当)	・来客数が前年並みに近づいている。婦人服はヤングを中心に継続的に良いが、1月に入って紳士がダウンしている。近隣の2店の競合店もどちらも前年割れをしているが、新規にできた大型商業施設はかなり良く、勝ち負けがはっきりしてきている。	
百貨店(業務担当)	・昨年は寒波が続き苦戦したが、反動増でやや落ち着きを見せる。	
百貨店(売場担当)	・春の到来が早く、春物商品の動きが活発になれば少しは好転する。	
スーパー(店長)	・好調に推移した12月の反動から、紳士肌着、婦人肌着、寝具という防寒関係の落ち込みが非常に厳しかった。また、高額品の動きに一服感がみられ、底堅さが今一つ感じられず、このまま推移する。	
スーパー(経理担当)	・福岡都市圏ではスーパーの出店が加速し、パイの取り合いになっている。	
コンビニ(経営者)	・依然として他のチェーンの出店が続いており、厳しい状況が続く。	
コンビニ(エリア担当)	・高単価な商品の動きが鈍く、買上単価が上がらない。	
家電量販店(店員)	・パソコンの売行きは良くなかったが、暖房器具、灯油の支出がかさみ、ゆとり家電の消費が鈍っている。地上デジタル放送関連商品も、当地の放映開始が年末になるので、しばらくは大幅な伸びは期待できない。	
乗用車販売店(従業員)	・新車の受注台数が増えない。	
乗用車販売店(販売担当)	・客の購買行動が相変わらず慎重であり、3か月先も消費行動、購買行動は急激には変わらない。	
住関連専門店(経営者)	・地元の中堅家具メーカーが倒産した。置き家具市場は依然として厳しい。	
その他飲食〔居酒屋〕 (店長)	・焼酎の単価が上がったことが、消費者に直接影響するので頭を痛めている。	
タクシー運転手	・プロ野球球団のキャンプ等が始まるが、自家用車、レンタカーの利用が増えているので、あまり変わらない。	
通信会社(企画担当)	・新規商品投入のめどが立たないため、変わらない。	
観光名所(職員)	・ゴルフ場は天候の影響も大きい、パイも限られているため、土日の来客数は200人に達しない状況が続いている。この傾向がこれからも続く。	
競輪場(職員)	・発売額の減少に加えて、入場者も減少しており、回復の兆しがない。	
競馬場(職員)	・入場者数、売上ともに、下げ幅は若干縮小しているものの、いずれも依然減少傾向にある。	
設計事務所(代表取締役)	・建設業界は、民間の発注が減少し、公共事業の新たな計画の動きもみられないため、厳しい状態が続く。市町村合併で特例債を使った事業も計画されているが、短期間の事業で波及効果は少ない。	
やや悪くなる	商店街(代表者)	・駐車場が無料である郊外の大型商業施設と比べると街中の商店は厳しい。
商店街(代表者)	・1、2月は毎年売上は減少気味であるが、今年も店売りだけのところは大変厳しい。入学シーズン、春物に向けて動き出している店も見られるが、やはり来客数が減少している。	
商店街(代表者)	・2月になるとバーゲンも終わり、春物が動くまでの時間、売るものがないので悪くなる。	
百貨店(営業担当)	・当社及び周りの専門店の状況を見ても、空き店舗が増え、店頭の数も5%程度前年よりも落ちている。この傾向はまだまだ続き、大型商業施設の影響もますます強くなっていく。	

		スーパー（店長）	・既存のものの売上だけでは苦しい状況である。新しい付加価値の部分を作っていないと前年をクリアするのは非常に厳しい。新しい部門、伸びているカテゴリーについて研究し、売り場のレイアウト変更や、売れ筋商品の1坪当たり売上高の向上を図っていく。	
		一般レストラン（スタッフ）	・12月くらいまで来客数、単価ともに昨年の水準を保っていたが、正月過ぎから急激に下がっており、今後も楽観視はできない。	
	悪くなる			
	良くなる			
企業 動向 関連	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・2月に関しては原料も少なく厳しい現状であるが、3、4月に関しては原料も豊富にあり、春の行楽シーズンでスーパー関連、居酒屋関連がかなり期待できる。	
		農林水産業（営業）	・販売量の増加が見込める。	
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・取引先が、新事業の展開や積極的な店舗展開をしている。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・同業者や発注側の稼働率も上がっており、これから受注拡大を図っていける。価格の見直しが少し認められてきており、それによって良くなっていく。	
		精密機械器具製造業（経営者）	・注引量が少しずつであるが増えており、今後も景気は良くなる。	
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・受注量は徐々に増加しており、2、3か月は仕事量が増える。	
		建設業（総務担当）	・3月から新しいマンションの受注が見えており、105戸で受注価格は7～8億円である。しかし、会社の資金繰りが非常に苦しい状態が続いており、仮に受注しても果たしてやっつけられるか、という不安がある。	
		建設業（総務担当）	・九州新幹線の工事がある。	
		金融業（営業担当）	・製造業、小売業ともに設備投資計画の話が出てきており、中小企業のオーナーあたりが増産、売上増加を見込んで計画を考えている。	
		不動産業（従業員）	・不動産売買取引が引き続き活況で、当面この状況が続く。	
		新聞社（広告）	・広告の出稿の問い合わせが以前より増えている。	
		広告代理店（従業員）	・寒い冬の影響で家電量販店・百貨店・小売店等いずれも前年を上回る受注量となり、好調に推移している。マンション販売等の不動産業は、耐震偽装問題の影響もあり前年ほどの受注が見込めず苦しい状況であった。ただ、全体的には景気の上昇が実感できるほど、受注量が伸びている。	
		変わらない	農林水産業（従業者）	・消費者の財布のひもが固く、鶏肉のような安い商品でも伸びがなく、逆に減少傾向である。
			農林水産業（従業者）	・重油価格低下の兆しが見えず、現在の高めの販売価格が長続きしなければ、昨年未までの低価格の影響が、そのまま残る。
			食料品製造業（経営者）	・納入先の客数は漸減状態で推移しており、これ以上の急激な落ち込みは考えにくいものの、依然として景気回復を実感できる状況にない。
			窯業・土石製品製造業（経営者）	・原材料が値上がりすると同時に燃料であるガスの単価が高騰し、それが製品価格に反映できないと、苦しくなる。
			鉄鋼業（経営者）	・新規物件を対象にした見積り・引き合いが停滞しており、市況にも一服感があり勢いががない。新規の引き合いは3月ごろになると予測されるが、メーカー側の発注はタイトであることから現在の市況の横ばいが当面続く。
			一般機械器具製造業（経営者）	・受注価格が低く、このままでは会社業績が良くならない。
			電気機械器具製造業（経営者）	・大手半導体メーカーが発注する案件の納期が、やや長くなっている。半導体関連、それに伴う機械加工関連も現状と同じような動きで推移する。
建設業（従業員）	・公共工事の激減や、民間設備投資の減少から仕事量が不足し、過当競争はまだ続く。同業他社も経費削減や人員整理など財務体質の強化に努めている。			
輸送業（総務担当）	・荷動きが非常に悪かったが、前月下旬の出荷数による反動である。傾向としてはあまり変わらない。			
通信業（職員）	・受注量については多少上向き要素も見られるが、依然として受注価格については厳しい状態が続いている。			
通信業（経理担当）	・売上が前年割れの企業でも企業収益は回復している。雇用状況が改善し、求人倍数も1倍を上回るという状況なので個人消費の力強さが少しは出てきた。			

	やや悪くなる	輸送業（従業員）	・燃料代がまた値上がりしており、自助努力でカバーすることが困難な同業者が多く、運賃値上げ交渉も不調で経営環境は厳しい。
		金融業（得意先担当）	・取引先とのヒアリングの中で3月までの受注はある程度確保されているが、4月以降については不透明である。
雇用 関連	悪くなる		
	良くなる	民間職業紹介機関（支店長）	・顧客の業種、あるいは職種、地域によるばらつきが以前よりなく、全体的に上向いてきた。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・年度末の傾向として、オーダー件数は順調に増加している。また、オーダーの30%程度が新規顧客のオーダーである。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・春の入学、転勤シーズンを前に賃貸物件の広告が増えてきている。物件が動けば、景気は向上ムードになり、さらに物件広告の費用も出てくると期待している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・これから年度末に向けての求人が活発になると予測される。また、人手不足感が高まっているので求人業界は追い風になる。
		新聞社 [求人広告]（担当者）	・北九州市に新北九州空港が開港し、東京便も大幅に増設され、人、モノが動き出す。
		職業安定所（職員）	・非正規社員の求人が全求人の半数を占めており、見かけほど雇用環境が改善しているわけではないが、ここ数年の採用手控えや大量定年への対応から、新卒や中途採用に積極的になりつつある企業の採用動向もうかがえる。
	職業安定所（職員）	・これから先についても製造業の設備投資の話が上がっており、明るい見込みである。	
変わらない			
やや悪くなる			
悪くなる		-	-